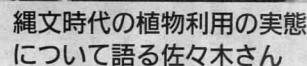


植物利用の実態解明取り組む

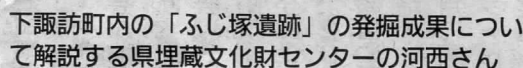
沢大学古代文明・文化資源学
研究所考古学部門特任准教授
の佐々木由香さん(49)に表彰



「なぜここで技術が定着したのか、どんな植物管理をすればこんないい素材ができるのかなどを解明していきたい」と抱負を述べた。(久保勇名)

下諏訪で「掘るしん」講演会

県埋蔵文化財センターは12日、講演会「掘るしんしんしむすわゝ遺跡から見る中世の祈り」を同町の下諏訪総合文化センターで開いた。同町の諏訪湖博物館・赤彦記念館で開催中の企画展「しむすわ鎌倉物語（19日まで）」の関連企画。同センターが近年、発掘調査し、約6万点もの礫石経が見つかった町内の「ふじ塚遺跡」の調査成果が報告され、礫石経から見えてくる中世の信仰の姿に迫った。



ものを「にスポ
わせて、礫石
河西克造さん
跡が「礫石経
言。発掘現場

や同センターでの整理作業などの写真を示しながら、「礫石経には梵^{ぼん}字が書かれているものもあり、僧侶が礫石経塚を作るのに関わっていた」「一石に一字が書かれている。たくさんの人が集まり、写経していたと考えられる」と解説した。

県内では調査例が少ない16世紀の礫石経塚の本格的な発掘により、民衆による写経や塚の造営の様子が分かってきたとし、「地元の人と密接に関連して存続した遺跡。発掘成果はまず地元に戻するのが優先される。その後は全国に成果を発信し、16世紀の民衆史・宗教史の研究を促したい」と意欲を示した。

他に、諏訪湖博物館の宮坂清館長が同町高木の殿村・東照寺社遺跡出土の礫石経(13〜14世紀)について解説したほか、立正大学の時枝務教授「宗教考古学」は時代によって変遷してきた経塚や礫石経の多様性を紹介した。(樋口美世子)

表甘味含ノ間誌

益公許志人日本工不仁會豐豐
豐豐會不仁工不仁會豐豐